

日语专业系列教材

总主编 ■ 皮细庚

新编日语泛读教程

教师用书 3-4

成同社 孙成岗◎本册主编



新编日语泛读教程

教师用书 3-4

本册主编◎成同社 孙成岗

第三册

副主编 山崎哲永

编委 陈雪 成同社 钱欣怡

魏然 山崎哲永

第四册

副主编 白晓光 刘芳亮



图书在版编目(CIP)数据

新编日语泛读教程. 3~4册/成同社, 孙成岗主编.
-上海: 华东师范大学出版社, 2015. 1
教师用书
ISBN 978-7-5675-3067-6

I. ①新… II. ①成…②孙… III. ①日语—阅读教学—教材 IV. ①H369.4

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2015)第 030856 号

新编日语泛读教程 教师用书 3—4

主 编 成同社 孙成岗
审读编辑 袁晓凌
责任编辑 孔 凡
装帧设计 卢晓红

出版发行 华东师范大学出版社
社 址 上海市中山北路 3663 号 邮编 200062
网 址 www.ecnupress.com.cn
电 话 021-60821666 行政传真 021-62572105
客服电话 021-62865537 门市(邮购)电话 021-62869887
地 址 上海市中山北路 3663 号华东师范大学校内先锋路口
网 店 <http://hdsdcbs.tmall.com>

印 刷 者 句容市排印厂
开 本 787×1092 16 开
印 张 24.5
字 数 611 千字
版 次 2015 年 3 月第 1 版
印 次 2015 年 3 月第 1 次
书 号 ISBN 978-7-5675-3067-6/H·769
定 价 49.00 元

出 版 人 王 焰

(如发现本版图书有印订质量问题,请寄回本社客服中心调换或电话 021-62865537 联系)

目 录

第三册

第 1 课

教学目标 / 3

テキスト A——陰翳礼賛 / 3

テキスト B——イチョウの落ち葉 / 10

第 2 课

教学目标 / 17

テキスト A——お月見 / 17

テキスト B——orange はオレンジとは限らない / 25

第 3 课

教学目标 / 31

テキスト A——世間体ということ / 31

テキスト B——「甘え」とは何か / 38

阅读教学论专栏 1 / 45

第 4 课

教学目标 / 48

テキスト A——視線の回避 / 48

テキスト B——沈黙の世界 / 54

第5课

教学目标 / 62

テキスト A——茶道の真意 / 62

テキスト B——江戸の職人 / 68

第6课

教学目标 / 77

テキスト A——履物が語る日本人の歩き方 / 77

テキスト B——“居る”ことの意味 / 83

阅读教学论专栏 2 / 91

第7课

教学目标 / 93

テキスト A——私の好きな春の言葉 / 93

テキスト B——柚子 / 99

第8课

教学目标 / 106

テキスト A——場面に依存する言語行動 / 106

テキスト B——男女差がなくなったことばづかい / 114

第9课

教学目标 / 121

テキスト A——働き蜂日本人と長期休暇 / 121

テキスト B——ちどりがけ / 128

阅读教学论专栏 3 / 136

第 10 课

教学目标 / 140

テキスト A——朝飯前 / 140

テキスト B——先入観の恐ろしさ / 148

第 11 课

教学目标 / 155

テキスト A——ごみから地球を考える / 155

テキスト B——IT 汚染 / 161

第 12 课

教学目标 / 167

テキスト A——日本の高等学校教育についての憂い / 167

テキスト B——理科離れの原因 / 172

阅读教学论专栏 4 / 179

第 13 课

教学目标 / 183

テキスト A——3 月 11 日 14 時 46 分 地震研では / 183

テキスト B——花を贈る / 189

第 14 课

教学目标 / 196

テキスト A——国会のしくみと内閣発足のプロセスを知る / 196

テキスト B——日本人の法と正義 / 202

第15課

教学目标 / 207

テキストA——老後の負担となる子供 / 207

テキストB——機会の平等 / 213

阅读教学论专栏 5 / 219

第四册

第一課

教学目标 / 225

テキストA 読書について / 225

テキストB 「本」、人それぞれの出会い / 229

扩展阅读 / 231

第二課

教学目标 / 233

テキストA ひとすじの道 / 233

テキストB 12471 / 238

扩展阅读 / 241

第三課

教学目标 / 243

テキストA 花は眠らない / 243

テキストB 風立ちぬ / 247

扩展阅读 / 251

第四課

教学目标 / 253

テキスト A 日本人の外国観 / 253

テキスト B 顔の見えなくなった大国 / 256

扩展阅读 / 259

第五課

教学目标 / 262

テキスト A ピアノ / 262

テキスト B AKB48 と女子校 / 265

扩展阅读 / 268

第六課

教学目标 / 270

テキスト A 風土と包丁文化 / 270

テキスト B 魂の食卓 / 275

扩展阅读 / 280

第七課

教学目标 / 282

テキスト A 現代人の知恵 / 282

テキスト B 健康と科学・その他 / 286

扩展阅读 / 291

第八課

教学目标 / 293

テキスト A 短歌の鑑賞 / 293

テキスト B 俳句的生活 / 298

扩展阅读 / 302

第九課

- 教学目标 / 304
- テキスト A 日本語の不自由さ / 304
- テキスト B やっぱり / 309
- 扩展阅读 / 314

第十課

- 教学目标 / 316
- テキスト A 令嬢アユ / 316
- テキスト B 伊豆の踊子 / 320
- 扩展阅读 / 324

第十一課

- 教学目标 / 327
- テキスト A 私はそう思わない / 327
- テキスト B 外の思考 / 332
- 扩展阅读 / 337

第十二課

- 教学目标 / 339
- テキスト A 山茶花の宿 / 339
- テキスト B 一枚の葉 / 344
- 扩展阅读 / 348

第十三課

- 教学目标 / 350
- テキスト A 海辺の光景 / 350
- テキスト B 花の下 / 354
- 扩展阅读 / 357

第十四課

教学目标 / 359

テキスト A 城の崎にて / 359

テキスト B 戦後その精神風景・死 / 366

扩展阅读 / 370


第十五課

教学目标 / 372

テキスト A 敗戦後論 / 372

テキスト B 手 / 377

扩展阅读 / 381



第三册

副主编 山崎哲永

编委 陈 雪(华东理工大学)
成 同 社(中国人民大学)
钱 欣 怡(中国人民大学)
魏 然(北京外国语大学)
山崎哲永(北京政法职业学院)

第 1 课

教学目标

1. 阅读技巧

重点学习“阅读技巧专栏 1”中的“辨识事实与观点”，包括“何谓事实与观点”、“观点与事实的出现模式”、“表示观点与事实的常用词语”等。

2. 日本文化

本课所选“阴影礼赞”、“银杏落叶”及 3 篇拓展阅读短文均与日本民族的审美意识有关。希望借此 5 篇文章的学习，使学生对日本人的美意识有初步了解，从而得以更全面地理解日本文化。

テキスト A——陰翳礼賛

一、选材理由

1. 该文是谷崎润一郎有代表性的散文之一，多次被日本的中学语文教科书采用，堪称经典。
2. 该文通过日本与西方不同建筑美学的对比，合乎逻辑地陈述了自己的观点，是一篇成功的立论性文章。
3. 该文较多地使用汉语词汇及文言语法，语言凝练，行文如流水，读起来琅琅上口，不失为美文。

二、作者、作品简介

谷崎润一郎(たにざき じゅんいちろう, 1886~1965), 日本耽美派文学的代表作家, 曾 4 次获诺贝尔文学奖提名, 代表作有《痴人の愛》、《春琴抄》、《細雪》等。

该作家曾两次(1918、1926)到访中国,与郭沫若、田汉、欧阳予倩等多有交往,并创作了《麒麟》等中国题材小说。《富美子の足》是最早(1928年)被翻译介绍到中国的作品,目前其代表作品基本都已有中译本。

《陰翳礼賛》(いんえいらいさん)是谷崎润一郎散文作品的代表作之一,发表于杂志《经济往来》(1933年12月号·1934年1月号)。该文从建筑、照明、纸张、餐具、化妆、传统艺术等多角度地对“陰翳”之美进行了考察与分析。

《陰翳礼賛》在国内已有数名译者将其翻译成中文,如孟庆枢(《阴翳礼赞》,河北教育出版社,2002)、李尚霖(《阴翳礼赞》,台湾脸谱出版,2007)、陆静华(《日语散文精华》,华东师范大学出版社,2008)、陈德文(《阴翳礼赞》,上海译文出版社,2010)等。

三、疑难词语解说

1. 单词读音

陰翳(いんえい)	礼賛(らいさん)	伽藍(がらん)
瓦葺き(かわらぶき)	茅葺き(かやぶき)	洞穴(どうけつ)
宏壮(こうそう)	百姓家(ひゃくしょうや)	遮蔽(しゃへい)
雨露(うろ)	軒端(のきば)	日本家(にほんや)
煉瓦(れんが)	土蔵(どぞう)	厨(くりや)
砂壁(すなかべ)	黄昏色(たそがれ)	無地(むじ)

2. 词语解说

(1) “知恩院”(学生用书1页7行)

知恩院(ちおんいん),位于日本京都市东山区,始建于公元1234年,创始人为法然上人,是日本佛教净土宗的总寺。

(2) “本願寺”(学生用书1页7行)

本愿寺(ほんがんじ),位于日本京都市下京区,建于1483年,是日本佛教净土真宗本院寺派的大本山。

(3) “…少しでも多く内部を明りに曝すようにしていることは、外形を見ても頷かれる。”(学生用书1页13行)

文中的“頷かれる”有“自发”与“可能”两种解释。但根据全句意思,更近于“自发”,类似于日语“無理なく納得できる”之意。

(4) “それでなくても太陽の光線の入りにくい座敷の外側へ、土庇を出したり縁側を付けたりして一層日光を遠のける。”(学生用书2页25行)

“それでなくても(とも)”多与“のに”等呼应,表示“それでなくとも~のに、~とさらに~になる”,因此该句意为“土庇を出したり縁側を付けたりしなくても日光が入りにくいのに、土庇を出したり縁側を付けたりして一層日光を遠のける”。其中“それでなくても”是指其后的“座敷の外側へ、土庇を出したり縁側を付けたりして”。

(5) “わざと調子の弱い色の砂壁を塗る。”(学生用书2页29行)

此处的“調子”相当于日语的“トーン”,即“色の調子”,国内辞书多译为“色调”。

四、课文分析

1. 文章串讲

原文	要点提示	大意归纳
<p>私は建築のことについては全く門外漢であるが、西洋の寺院のゴシック建築というものは屋根が高く高く尖って、その先が天に沖せんとしているところに美観が存するのだという。これに反して、われわれの国の伽藍では建物の上にまず大きな臺を伏せて、その庇が作り出す深い広い陰の中へ全体の構造を取り込んでしまう。</p>	<p>利用表示逆接的“～に反して”，提示后句与前句是对比关系。</p>	<p>文章开门见山，运用对比的手法指出日本和西洋宗教建筑的不同。哥特式西洋教堂以屋顶尖耸，直冲云霄为美，而日本佛寺的建筑特点是广薨覆顶，屋脊出檐，房间束于宽檐下的阴影中。</p>
<p>寺院のみならず、宮殿でも、庶民の住宅でも、外から見て最も目立つものは、ある場合には瓦葺き、ある場合には茅葺きの大きな屋根と、その庇の下に漂う濃い闇である。時とすると、白昼といえども軒から下には洞穴のような闇が繞っていて戸口も扉も壁も柱もほとんど見えないこと<u>すら</u>ある。これは知恩院や本願寺のような宏壮な建築でも、草深い田舎の農家でも同様であって、昔の大概な建物が軒から下と軒から上の屋根の部分とを比べると、少なくとも目で見たところでは、屋根の方が重く、堆く、面積が大きく感ぜられる。さようにわれわれが住居を営むには、何よりも屋根という傘を拡げて大地に一郭の日陰を落とし、その薄暗い陰翳の中に家造りをする。もちろん西洋の家屋にも屋根がないわけではないが、それは日光を遮蔽するよりも雨露をしのぐための方が主であって、陰はなるべく作らないようにし、少しでも多く内部を明りに曝すようにしていることは、外形を見ても頷かれる。日本の屋根を傘とすれば、西洋のそれは帽子でしかない。<u>しかも</u>鳥打帽子のように出来るだけ鏝を小さくし、日光の直射を近々と軒端に受ける。</p>	<p>“のみならず”表示不仅前项如此，后项也是一样。此处表示各种日式建筑具有共同的外观特点。</p> <p>“すら”是副助词，意为“连、甚至”，在此提示极端情况。此句意为有时即使在大白天，屋檐下的阴翳像洞穴一样弥漫开来，门口、窗户、墙壁、柱子几乎看不见。</p> <p>“でしかない”是“名词+だ”的强调形式，表示“仅限于此、仅此而已”。此处强调日式和西洋屋檐差别之巨大。</p> <p>接续词“しかも”表示“添加、递进”。文中表示仅把西洋建筑的屋檐比作帽子还不够，应该比作帽檐窄小的鸭舌帽才更恰当，从而进一步突出其与日式屋檐的差异。</p>	<p>作者进一步指出：不仅限于佛寺，皇宫建筑乃至平民的房子，最显著的外观特点就是宽大的屋檐和其下浓厚的阴影。作者兼用对比和比喻的手法形象生动地说明如果把日式建筑的屋顶比作一把伞，那么西洋建筑的屋顶就像一顶鸭舌帽。日式建筑借助屋顶这把伞遮挡日光，形成阴影，而西洋建筑则尽量减少阴影，使房屋内部能采到更多的日光。</p>

续表

原文	要点提示	大意归纳
<p>けだし日本家の屋根の庇が長いのは、気候風土や、建築材料や、その他のいろいろの関係があるので<u>であろう</u>。たとえば煉瓦やガラスやセメントのようなものを使わないところから、横なぐりの風雨を防ぐためには庇を深くする必要があった<u>であろうし</u>、日本人とて暗い部屋よりは明るい部屋を便利としたに違いないが、是非なくああったの<u>でもであろう</u>。</p>	<p>副词“けだし”与表示推测语气的“であろう”相呼应，貌似推测，实为作者的观点。 这两处的“で(も)あろう”也是用于表明作者的观点。</p>	<p>前面都是对事实的描写，在这部分作者提出了自己的观点：日本房子的屋檐长与日本的风土气候、建筑材料等有关。日本人肯定也觉得明亮的房子比昏暗的房子更方便，但不得已就变成了那样。</p>
<p>が、美というものは常に生活の実際から発達するもので、暗い部屋に住むことを余儀なくされた我々の先祖は、いつしか陰翳のうちに美を発見し、やがては美の目的に添うように陰翳を利用するに至った。事実、日本座敷の美は全く陰翳の濃淡によって生まれているので、それ以外に何もない。西洋人が日本座敷を見てその簡素なのに驚き、ただ灰色の壁があるばかりで何の装飾もないという風を感じるのは、彼等としてはいかさまもつともであるけれども、それは陰翳の謎を解しないからである。</p>	<p>将一个自成段落的文章分成若干逻辑段时，最简单的方法是寻找表示转折的词语，此处的“が”就是一个标志性的转折词。 “それ”指代前面的“西洋人が日本座敷を見てその簡素なのに驚き、ただ灰色の壁があるばかりで何の装飾もないという風を感じる”。</p>	<p>作者对“阴影之美”进行了阐述，指出迫不得已已在昏暗房屋中生活的先人们逐渐在阴影之中发现了美，并最终学会巧妙利用阴影达到美的目的。日式房子的美皆因阴影的浓淡而生，西方人不懂这一点是因为他们不解阴影的奥秘。</p>
<p>我々は、それでなくても太陽の光線の入りにくい座敷の外側へ、土庇を出したり縁側を付けたりして一層日光を遠のける。そして室内へは、庭からの反射が障子を透してほの明るく忍び込むようにする。我々の座敷の美の要素は、この間接の鈍い光線に外ならない。我々は、この力のない、わびしい、はかない光線が、しんみり落ちていて座敷の壁へ沁み込むように、わざと調子の弱い色の砂壁を塗る。土蔵とか、厨とか、廊下のような所へ塗るには照りをつけるが、座敷の壁はほとんど砂壁で、めったに光らせない。もし光らせたら、その乏しい光線の、柔かい弱い味が消える。我らはどこまでも、見るからにおぼつかなげな外光が、黄昏色の壁の面に取り着いてからくも余命を保っている、あの繊細な明るさを</p>	<p>“～に外ならない”意为除此之外别无其他，在此作者以极其肯定的语气表明了自己的观点。 “力のない”、“わびしい”、“はかない”、“おぼつかなげな”、“繊細な”等词语，意思相近，在文中构成复现关系，在保持了语义连贯性的同时，避免了语感上的重复。</p>	<p>作者具体描述了日式房子如何利用透过隔扇映射进来的间接微弱的光线达到美的目的。 这部分可分为两层意思： 第一层(第1~3句)：原本因屋檐宽大而使得光线难以照射进来的日式房间又在外面加盖檐廊或外廊，更加远离日光。然后让经由庭院反射的日光透过隔扇悄悄潜入房间。日式居室美的要素就在于这间间接微弱的光线。 第二层(第4句至最后)：具体描写为了将这空寂虚渺的光线安静地渗入到居室的墙壁中，人们有意将居室的墙壁涂上素色。这种砂壁的明或暗胜过任何装饰，让人百看不厌。</p>

续表

原文	要点提示	大意归纳
<p>楽しむ。我らにとってはこの壁の上の明るさあるいはほの暗さが何物の装飾にも優るのであり、しみじみと見飽きがしないのである。さればそれらの砂壁がその明るさを乱さないようにとただ一色の無地に塗ってあるのも当然であって、座敷ごとに少しずつ地色は違えけれども、なんとその違いの微妙であることよ。それは色の違いというよりもほんのわずかな濃淡の差異、見る人の気分の相違というほどのものでしかない。しかもその壁の色のほのかな違いによって、また幾らかずつ各の部屋の陰翳が異なった色調を帯びるのである。</p>	<p>“されば”为接续词，表示上下文为因果关系。</p> <p>“なんと～ことよ”这个感叹句式表明作者对这种微妙差异的惊叹。</p>	

2. 段落划分及段意归纳

段落序号	段落起止点	段落大意
第一逻辑段落	起：私は建築のことについては～ 止：是非なくあんなったのもあるう。	对比日本和西洋建筑的不同，突出日本建筑的特点在于宽大的屋檐和因此而形成的阴影。并指出日式房子的屋檐宽大与日本的风土气候、建筑材料等特点有关。
第二逻辑段落	起：けだし日本家の屋根の庇が長いのは～ 止：それは陰翳の謎を解しないからである。	先人在阴影中发现了美，并巧妙利用“阴影之美”，达到美的目的。日式房屋的美即源自于阴影的浓淡。
第三逻辑段落	起：我々は、それでなくても～ 止：異なった色調を帯びるのである。	日本人利用光线，营造阴影之美的具体做法及视觉效果。

注：

由华东师范大学出版社出版的《日语散文精华》(陆静华, 2008)收录了谷崎润一郎的《阴翳礼赞》，并对原文进行了分段处理。该书将这篇文章分为2段：

第一段：开篇至“やがては美の目的に添うように陰翳を利用するに至った”。

第二段：“事実、日本座敷の美は全く陰翳の濃淡によって～”至文章结束。

3. 文章主题思想

由于气候、建筑材料等原因，传统的日本建筑不同于西洋建筑，宽檐覆顶，天光少进，故而日本人从中发现了“阴影之美”，并喜爱之发扬之，形成了日本民族特有的审美情趣。

五、教学建议

1. 利用 PPT 为学生提供必要的词汇表，扫清单词障碍。
2. 请学生朗读课文或默读，了解文章内容。
3. 解答学生提问。教师也可主动设计若干提问，以活跃学生思维。